

企業名： グローリー

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる

統合報告書の、はじめに、のところに書かれている、『コア事業と新領域事業のクロス成長を通じて、持続的な企業価値の向上を実現してまいります』という文章にすべてが集約されていると思う。コア事業とはグローリーが今まで主力として行ってきた通貨処理機等の事業のことであり、新領域事業とは既存の事業で培った技術をもとにして行う、ロボット事業、生体・画像認識事業等の新しい事業のことであるが、新型コロナウイルス感染症の流行により加速した電子決済の普及に対応するべく既存の事業も成長させつつ、それ以外の事業にも活路を見出そうとしており、グローリーの柔軟な対応が見て取れる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解しづらい

グローリーは通貨処理機等の分野で日本でも、そして世界においても圧倒的なシェア率を誇っていることは知っているが、そのことは統合報告書には記されておらず競争優位性を読み取ることはできなかった。売上高などの数値を記すだけではなく、他社と比べてどうなのかや、世界で圧倒的なシェア率を誇っていることなどは統合報告書に大きく書くべきだと考える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

おおむね理解できる

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると思う

統合報告者の『成長戦略の実現に向けた人的資本・知的資本の強化』のところに優秀なエンジニアを今後も確保する方法が詳しく記されている。グローリーには3年に一度チャレンジ面談なるものが行われて、エンジニアが希望する部署に配属がなされることがあるそうだ。会社側はエンジニアが会社に長く勤めることよりも自らの技術力の向上させることに大きく魅力を感じることを理解しており、この制度は人的資本の価値向上の大きな助けになると考えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点としては1でも示した通り、グローリーが世界の潮流を機敏に感じ取って新たな事業も開拓する姿勢が感じられたことと、